



# 金星と木星をみよう！



金星と木星が6/9前後で非常に近い位置にみえている。  
低倍率の双眼鏡なら、視野内で一度に2つの天体を  
みることができるかもしれない。

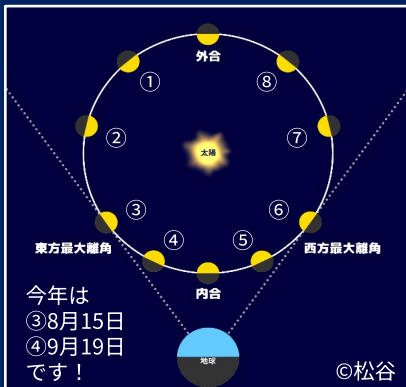
1週間もしないうちに、とくに金星の位置が変わって  
みえるため、今のうちに隣り合っている様子を見よう！

## <探し方>

暗くなってくると、西のほうに明るい星がひとつ、  
ふたつとみえるようになる。2つの星のうち、より  
明るいほうが金星、もう一つのほうが木星である。  
もっと暗くなると、金星・木星の右側にはふたご座の  
星もみえてくるため、横一列がにぎやかになりそうだ。



6月9日20時00分ごろの空 (StellaNavigator/アストロアーツ)

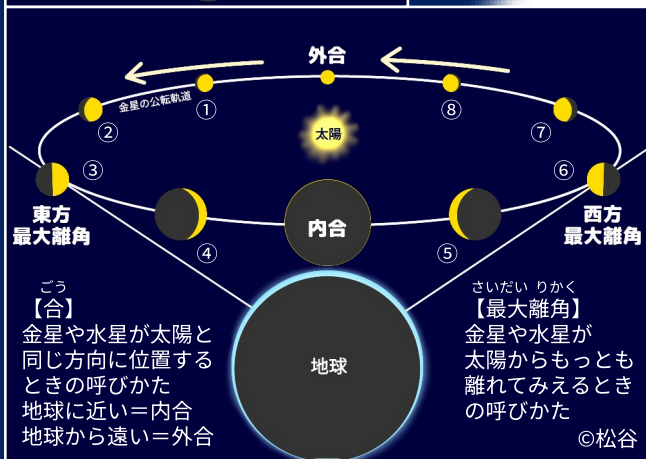


## ☆金星の形が変わる！？

地球よりも太陽に近いところを回っている水星や金星は、望遠鏡を使うと  
月のように満ち欠けをしてみえる。(金星がとくにわかりやすい)  
地球からみたとき太陽と同じ方向に金星がいる場合(左図の内合・外合の  
あたり)は観察することができないが、①や⑧の時期には太陽の光が当た  
っている面(昼の部分)が多くみえるため、満月のような形をしてみえる。  
対して③や⑥、④や⑤のあたりに金星がいる場合は、太陽の光が当たって

いる面が地球からみて半分だけだったり少しだけだったり  
しかみえないため、半月形や三日月形になる。

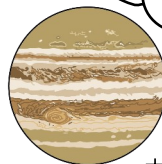
また地球から金星までの距離は、①と④のときで大きく  
異なるため、望遠鏡でみたときの大きさもちがう。外合  
近辺のときと内合近辺のときでは、後者の金星のほうが  
およそ6倍も大きくみえる。ぜひ比べてみよう！



金星と地球の位置関係(上)、  
地球からみたそれぞれの位置での  
金星の形(下)

## ☆木星

- 太陽系の惑星の中で、一番大きい天体  
(地球が横に11個ならぶほどの大きさ)
- ガスでおおわれており速い自転(1回転10時間)、  
気流のちがいによってしまもようができています
- 地球からはみえないが、細い環をもっている



木星©松谷

## 次回の観察会

【2026年6月21日(日)】  
15:00~17:00  
(最終受付16:30)

テーマ  
「夏至の太陽・昼間の星」

※18時からは通常通り  
開館します！